

# 広報 おおくら

むら美しく 人いきいき キラリおおくら

# 11

令和元年  
No. 723



特集

## 農を受け継ぐ

# 若い力



# 特集 農を受け継ぐ 若い力

現在、地域のイベントへの参加や農産物の普及啓発活動をおこなって、農業と食の魅力の発信を行っています。昨年村納涼花火大会に合わせて商工会が開催している「トマトライアソン」に

## 地域のイベントにも 欠かせない存在に

大蔵村には若い農業者十数名からなる「大蔵村農業後継者の会」通称「メンズ農業」という団体があります。若い農業者同士が集まり、情報交換や仲間づくりを行うことを目的に平成23年に発足されました。メンズ農業は農業に携わっていた國分大市さん(白須賀)と伊藤貴之さん(合海)の2名からなる「大市会」が前身です。同世代が農業をしていると聞いては誘い

## 若い農業者の集まり 「メンズ農業」の発足

に出かけ、徐々にメンバーが増え、現在のメンズ農業の形となりました。メンバーはそれぞれが一経営者です。米やトマト、きゅうり、たらの芽など、栽培している作物は異なりますが、それぞれが農業と真剣に向き合っています。

10月16日(水)、地区公民館にメンズ農業のメンバーが集まりました。この日のテーマは10月末開催の「おくら大産物市」での出し物や役割分担について。このように、メンズ農業ではメンバーの自宅や地区公民館などで2か月に1度のペースでミーティングを行っています。テーマ以外にも、メンバーそれぞれが持つ現在の課題や今後の存在について語り合います。「仲間

2か月に1度のミーティング

体で出場。このイベントは村の特産品であるトマトのPRを目的に開催されており、トマト、トマトアイス、トマトサイダーをいかに早く食べるかを競う競技です。「負けたらトマト農家やめます」と大きく宣言するメンバー。他の団体に大差をつけて優勝を決め、イベントを大いに盛り上げました。また、平成26年度にはトマトを使った加工商品「トマトたっぷりカレー」を開発するなど、積極的な農産物の普及・啓発活動が行われています。

就農  
2年目

## 子どものころから田んぼが好き——息子が憧れるプロ農家になりたい



八畝 裕児さん(合海)

米とトマトで就農して2年目になります。子どものころから田んぼが好きで、農業をすると心に決めていました。米だけで経営を成り立たせるのは難しかったので、トマトをはじめました。父親から「すぐ就農もいいけど社会に出てから就農しても遅くないねが」と言われ、農業に携われる農機具の会社で13年間働いていました。その経験もあり、ちょっとした機械の不具合は自分で

直すことができます。今でも田んぼが好きなお気持ちは変わりません。コンバインを乗りながら見える最上川と田んぼの両方の景色がたまらなく好きです。稲刈りのときに息子をコンバインに乗せたりしています。息子も田んぼが好きなので「プロ農家になる」という言葉を聞いたときはとてもうれしかったです。10年後、15年後の地域の農業を守りたい。私にはそんな思いがあります。

## 一人前の農家への道…それはミニトマトをはじめることでした

就農  
19年目

農家になって19年目になります。メンズ農業の中では一番農業歴が長いです。私の家は専業農家で、就農してすぐの頃は、菌床しいたけの仕事をしていました。同時に大玉トマトの栽培を父親と母親と一緒に家族経営という形でしていました。しかし、一人前の農家になるために、どうにか変わらなくてはいけない——30歳を前にそう考えるようになりました。両親と一緒に農業経営だと、

どうしても甘えが出てしまう。そんな現状を打破するためにはじめたのがミニトマトの栽培でした。現在では、6棟のハウスでミニトマトを栽培しています。収穫が忙しいときはアルバイトの人を頼むこともあります。一人で栽培を始めて、これまで見えなかったことも見えるようになりました。栽培すべてが自分の責任です。これからも、栽培の面で進化させていきたいと考えています。



三條 正通さん(白須賀)

# 農業とむきあう若者の姿

農業をはじめたきっかけはさまざま。栽培している作物もさまざま。大蔵村の農業を盛り上げるメンズ農業のメンバーに話を聞きました。



初代メンズ農業代表  
國分 大市さん(白須賀)

土地を受け継ぐ決意と  
守らなくてはいけない地域農業があります

## 父という農業の礎

「父に農家を継いでほしいと言われたわけではありません」  
そう話すのはメンズ農業の立ち上げの発起人となった國分大市さん。24歳のときに、県立農業大学校(現在の農林大学校)で1年間の研修を経て、25歳で就農しました。「夕ご飯を食べ終わってからも仕事をしていた父親の姿を見ていて、農家は大変だなと子どもながらに感じていました。親はずっと仕事をしているというイメージがあります」  
大市さんの父俊秋さんは夫婦二人三脚で農家を営んできました。

現在栽培している米・原木しいたけ、ねぎの他にも過去には加工用トマト、ストック、山ごぼうなど様々な作物の栽培経験を持っています。  
「必ず儲かるとは限らないから、農家をしろとは言えない。でも、専業農家でもなんとか食べていける。大市は野球ばかりやってきたから、農業をするなら農業の勉強もしなければならぬ。それで大市は農大へ行った。」  
冷害による米の不作や農業政策の転換など、農業の厳しさも経験してきたからこそ俊秋さんの言葉です。  
「今でも農業の道に進んだことは

## 若手のがんばりが村のために

不思議に思う。父や周りの人など、農業で生活してきた人たちはすごいと思う。父は自分を含め、兄妹3人を大学に入れてくれた。家を離れて生活し、違う分野を学んだからこそ、得たこともたくさんある。父という礎があったから農業ができる。そして自分が働いた分だけ見返りがある。それが農業の魅力でもあります」  
両親への感謝の気持ちとともに、土地を受け継ぐ決意を持ちます。農業者が減っていく中で、水路の草刈などの維持管理が大変になってきています。しかし、守らなくてはいけない地域農業があります。自分たちに課せられた課題をみつめます。

「メンズ農業のメンバーは、20代から40代と年代もバラバラ。栽培している作物も違うけど、農業にむかう情熱が同じ。対等に、そして真剣に農業の話ができる間柄。そんな仲間がいることはいいこと。何より、メンバーに頼られればうれしい」  
大市さんは4月17日(水)の早朝、メンズ農業の他のメンバーとともに、トマト栽培をしている長瀬剛さん(上竹野)のもとに足を運びました。この日は長瀬さんのハウスのナイロンかけ作業が行われました。テキパキとした動きで、次々と10棟のハウスにナイロンが張られていきました。大市さんはメンバーから声をかけられたら協力したいと言います。メンバーが困ったときには手助けできる、声がかかけやすいそんな間柄です。困ったときはお互いさま。栽培作物の品目を越え、地域を越え、若い農業者同士の信頼関係が構築されています。大蔵村では、少しずつではありますが、若い農業者が増えてきています。若手が頑張ることは大蔵村のためでもあると若者たちは語ります。



▲ネギの選別作業をする父俊秋さん

## 現在、8代目のメンズ農業の代表を務めています

私の家は農家で、加工用トマトをしていたときからトマト栽培をしていました。子どもの頃、収穫用のカゴで遊んでいた記憶があります。私の家族は働きもので、小さい頃からその姿を見てきました。ゆくゆくは農家を継ごうと思っていましたが、高校卒業後しばらくは電気関係の仕事をしており、そのこともあってトマト栽培のできない冬は電気関係の仕事をしています。最初の頃は各市会の集

まりを断っていました。でも、集まりに行ってみると、自分の考えを親身に聞いてくれますし、話をしていると「俺も一人前の農家になった」と思えるようになりました。現在は8代目のメンズ農業の代表を務めています。よく母親から「何でも経験だ」と言われてきたこともあり、代表を引き受けました。代表になったことで知らなかった人とも話す機会もあり、楽しく代表をさせてもらっています。



國分 武さん(通り)

## プログラマーから農家へと転身しました



安彦 和樹さん(作の巻)

農家を始める前はプログラマーの仕事をしていました。子どもの頃は農業をするとは思っていませんでした。新規就農支援や補助金制度があると聞いて、就農しました。今年で就農4年目になります。新規就農者としてきゅうりを始め、冬季のたらの芽栽培は父と一緒にやっています。きゅうり栽培は葉が混みあってくると病気がつきやすくなるので、管理が大変です。管理を

しても2、3日後にはまた同じところの葉が混みあってきてしまいます。気持ちに余裕がないと上手くいかないの、あせらないようにしています。私の姉が國分大市さんと同級生ということもあり「農家したんば入んねが？」と声をかけてもらったことがメンズ農業に入ったきっかけです。農家は一人仕事が多いですが、メンバーと話すことでいい息抜きになっています。



「みんなにお願いがあります。もつとトマトのことを知ってください。トマトをたくさん食べてください。そして、大きくなったらみんなトマトづくりをしてください」

メンズ農業のメンバーは、将来、一緒にトマトづくりをしましょうと子どもたちに呼びかけました。

「大蔵村のトマトのことをたくさん知ることができました。メンズ農業のみなさんと一緒に給食を食べることができてうれしかったです」

子どもたちから感想が話されました。

「みんなにお願いがあります。もつとトマトのことを知ってください。トマトをたくさん食べてください。そして、大きくなったらみんなトマトづくりをしてください」

メンズ農業のメンバーは、将来、一緒にトマトづくりをしましょうと子どもたちに呼びかけました。

### メンズ農業はふるさとの良さを教えてくれる地域の先生



大蔵小学校 内和 通 校長

総合的な学習の時間「大蔵っ子タイム」は地域を知り、ふるさとの良さを知ることを実践しています。地域には少子化や人口流出という課題があります。そのため、これからは地域の良さを知っている子どもを育てていかなければなりません。メンズ農業のみなさんは活気があって、やる気があるという印象で

す。村の良さの一つが農業です。トマトは子どもたちの生活で目にする機会もあり、とても身近なものです。地域には子どもたちに未来の担い手になってほしいという願いもあります。子どもたちが村に残って頑張っている人々に触れることにより、ゆくゆくは地域で頑張りたいと思うことにつながってほしいと考えています。



トマトの先生として

メンズ農業のメンバーは4年前から大蔵小学校の子どもたちの「トマトの先生」を担っています。総合的な学習の時間で、5月にトマトの定植体験、7月に生育観察、9月に収穫体験を行っています。これらの学習はキャリアアプランニング能力の育成の一環としても実施されており、地域の特産品をつくる職業について触れる機会となっています。

#### 収穫の喜びを体験

9月2日(月)、トマトの収穫体験のためにメンズ農業のメンバーである伊藤貴之さんのハウスを訪れた3年生15名は「1年にトマトはどれぐらい採れますか」「収穫するのにどれぐらい時間がかかりますか」「赤くならないトマトはありますか」など次々に質問をしていました。そして待ちにまつた

収穫の時！

「こんなに大きいトマト見つけたよ」「真っ赤なトマト見つけたよ」など袋いっぱいトマトを収穫しました。そして、採れたてのトマトに豪快にかぶりつく子どもたち。自分で収穫したトマトの味は格別。収穫体験の最後には子どもたちからメンズ農業のメンバー一人ひとりに「トマト給食」への招待状が手渡されました。

#### 年に1回のトマト給食

9月6日(金)、大蔵小学校の特別な給食の日「トマト給食」にメンズ農業のメンバーが招待されました。トマト給食は子どもたちにとっても楽しみにしている給食の日だといえます。毎年、トマトの学習をした学年が給食のメニューを考案しています。昨年はトマトたっぷりの「トマトカレー」。今年は3年生が「トマトとオクラのサラダ」と「ミネストローネ」を

# 次世代のメンズ農業を育てたい



### 3年生考案のメニュー

#### MENU

ピタパン、タンドリーチキン、  
トマトとオクラのサラダ、  
ミネストローネ、牛乳





# これからもつながる 地域農業の未来へと

農業に価値を見いだして

私が就職する頃の職業選択肢は土木業か農業のどちらかでしたが、農業はあまり勧められませんでした。米だけで経営を成り立たせることは難しい時代だったからです。

J Aの方から「トマトをしないか」と声をかけられましたが、その頃は今のよう栽培技術が確立されておらず、自分のように若くして農業をしている人もいなかったため、トマト栽培を始めたものの、続けていけるか不安でした。そのとき、大蔵村のトマト栽培の先駆者である斉藤啓さんは自分の背中を押してくれました。

父親が退職したことを機にパイプハウスを増棟し、現在は父と母、パートの方4人を雇い、12棟、約50ア

ールでトマトを栽培しています。

大蔵村はトマトの産地として栽培者数が増加し、次第に販売価格が安定するようになりました。就農から10年後には、「お金を稼ぐならトマト農家をするとうい」と言われるほどになりました。

先人が紡いできたものをむげにはできない、農地を守り、つなげていきたいという気持ちがあります。農業をすることに価値があると考えています。小学校での食育の授業は郷土愛を育む意味もあります。トマトの学習が子どもたちの頭の片隅に残り、いつか花ひらき、一緒に農業をする日が来ることを楽しみにしています。

私たちに課せられた使命

小さい村でこんなに若い農業者が

いることは珍しいのではないのでしょうか。トマト栽培に関わっているメンバーが多いので、栽培管理についての相談をしたり、台風の時には声をかけあったりとメンズ農業のメンバーはお互いに励ましあう心強い仲間です。

年々、村の人口が減っていますが、メンズ農業である私たちが村の農業に夢をもち、就農へのきっかけにならなければならぬと考えています。そして、私たちが稼げる農業の姿をみせていかなくてはいけないと考えています。稼げる仕事があれば人は残ります。先人たちがその姿を見せしてくれたから、私たちのように若い農業者が増えてきたのではないのでしょうか。今度はそれを自分たちが先頭に立って見せていかなくてはなりません。



2代目メンズ農業代表  
伊藤 貴之さん(台海)

これからの農業を引っ張る  
若者に期待を寄せて

早坂 勇さん(白須賀)

メンズ農業という若い農業者が増え、それをまとめ、引っ張っていかなくてはならない人材がいることを頼もしく思っています。農作物は手をかけなくては良いものではありません。当たり前なことを当たり前にする。汗を流してどれだけ手入れをするかが大切です。なにより、愛情をかけることです。トマトで例えれば、トマトの木1本、トマト1個を大事にすれば、大事にした分だけ必ずこたえてくれます。農業のやり方は人それぞれ。自分自身の農業スタイルをつくっていかねばなりません。雪が降る大蔵村での農業は甘くはありません。家族を支えていくためには安定した収入が大切。そして、家族と一緒に作業している人とのチームワークが大切です。

農業は何年しても難しい。それでも、若い農業者は頼もしい存在で、期待しています。これからの農業を引っ張ってくれるようなメンバーもいます。これからどんな新しい発想が生まれてくるか楽しみです。たくさんさんの農産物を積んだトラックが行き交うこの大蔵村の風景が、これからも続いていくように――





▲ (上) 指定避難場所である大蔵小学校で点呼する様子、(左下) 火災防御訓練で放水を体験(右下) 炊き出し訓練ではいも煮が調理された

### 自主防災組織での防災訓練

10月12日(土)、地区の安全の確保と防災知識の普及を目的に、合海地区自治会と合海消防団との共催で地区防災訓練が実施されました。地区の自主防災組織立ち上げ後初めての訓練で、地区住民や小学生など約80人が参加しました。秋雨前線の停滞による大雨で大規模な洪水が発生する危険性があると想定し、合海センターから指定避難場所である大蔵小学校への避難誘導訓練、消火器を使っての初期消火訓練、火災防御訓練、炊き出し訓練などが実施されました。炊き出し訓練では村食生活改善推進員の協力のもと、指定避難所に設置してある釜で炊き出しが行われました。

県防災アドバイザーであり、地区代表も務める矢作俊郎さん(合海)は「地区の安全確保を目的に開催した。実際に避難する事態になったときに行動に移せるようにするためには、防災訓練は大切」と話してくれました。また、訓練に参加した4年生の蔵津斗望くん(合海)は「火を消すためのホースはずっしり重くて、消防団の大人の方がやっていることが大変なんだと思った」と感想を話してくれました。



▲ 息のあった演奏が披露されました

### 大蔵太鼓保存会結成35周年記念式典

10月13日(日)、中央公民館で大蔵太鼓保存会結成35周年を記念する式典が行われました。村内外から約180名が来場し、迫力のある太鼓の演奏に耳を傾けました。清水地区の小学4年生から6年生までの子どもと大人打ち手28名による「清水八幡太鼓」や「清水城笠松太鼓」など5曲が演奏されました。また、白須賀出身の紅花家琴纏(早坂勉)さんによる清水城にまつわる講演や合海田植え踊り保存会による大黒舞が披露され、式典に華を添えました。



▲ 白熱したゲーム展開となったフリーバレー

### スポーツの秋到来! スポレク祭

10月14日(月)の体育の日に、中央公民館を主会場におおくらスポレク祭兼Oh蔵SPORTクラブ祭が開催されました。エンジョイ吹き矢やワナゲ、グラウンドゴルフ、フリーバレーなど6種目が行われ、村内外から訪れた6歳から87歳までの103人が清々しい汗を流しました。やわらかく軽いビニールのボールを使ったフリーバレーでは中学生から大人まで9チームが参加し、1点を争う白熱したゲーム展開が繰り広げられました。



▲ グループごとにユニークなアイデアが出されました

### 総合計画策定にむけて おおくらみらい会議

9月25日(水)、赤松生涯学習センターでおおくらみらい会議が開催されました。様々な職種の方々28名が集まり、第4次大蔵村総合計画策定にむけ、意見交換が行われました。「棚田」、「トマト」、「肘折」の3つのテーマに分かれ、にぎわう大蔵村にするために何ができるかのアイデアが出されました。「トマトのPRのためにトマト狩りの体験をできるようにしてはどうか」「夏に雪だるまをつくってはどうか」などユニークなアイデアが発表されました。



▲ 採れたてのトマトでモスバーガーをつくりました

### 村の稼げる農業を学ぶ

10月4日(金)、新庄・最上の高校生が地域の課題や魅力を学ぶ「ジモト大学」の大蔵村講座「稼げる農業」が開催されました。村内外の高校生9名が参加し、村農業後継者の会「メンズ農業」のメンバーが講師を務めました。村のトマトを使っているハンバーガーチェーン「モスバーガー」の協力で、収穫したてのトマトを輪切りにし、ハンバーガーの調理も体験しました。佐藤溪人さん(合海)は「農業を稼げるものにした人が地元にいることを誇りに思う」と感想を話してくれました。



▲ 楽しい雰囲気の中、開催されました

### 村長杯グラウンドゴルフ大会

10月6日(日)、南山交流広場で第7回大蔵村村長杯グラウンドゴルフ大会が開催されました。4~5人のグループに分かれ、16ホールの合計打数を競いました。前日の降雨でグラウンドには水溜りができており、思いどおりにボールが転がらないという場面もありましたが、和気あいあいとした雰囲気の中、行われました。男子の部では齋藤義廣さん(烏川)、女子の部では齋藤美代子さん(同)、夫婦そろっての優勝となりました。おめでとうございます。



▲ スイングの実技指導を受けました

### 元メジャーリーガー岩村明憲さんに学ぶ

10月9日(水)、中央公民館で元プロ野球選手の岩村明憲さんを講師にむかえ教育講演会が行われました。岩村さんはこれまでの野球人生を振り返り、「何事も苦しみこそが礎となる。夢をもって頑張ってもらいたい」と児童生徒にエールを送りました。講演の中ではキャッチボールやスイングなどの実技指導も行われました。実技指導を受けた大蔵中2年の早坂大翔さん(白須賀)は「アドバイスをこれから生かし、来年の中総体にむけて努力していきたい」と話してくれました。

## 第58回山形県交通安全県民大会 交通死亡事故ゼロ18年を称えての受賞



10月16日(水)、山形市の県郷土館文翔館で第58回山形県交通安全県民大会が開催されました。その席上で山形県交通安全対策協議会長(知事)表彰として大蔵村交通安全推進協議会が交通死亡事故ゼロ達成18年の賞詞を受賞しました。大蔵村は平成13年9月から今年9月まで交通死亡事故が18年間発生しておらず、交通安全推進協議会を中心とした安全運動の成果ともいえます。今後も村民みんなで交通ルールを守り、事故が発生しない安全な村を目指していきましょう。

## 明るい住みよい街づくりのために LED街路灯7基が寄贈される

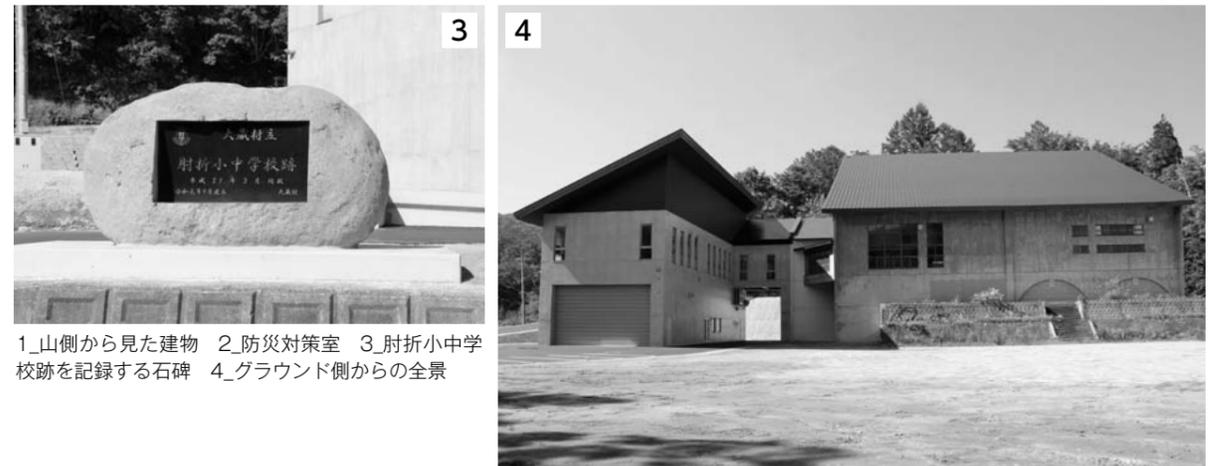
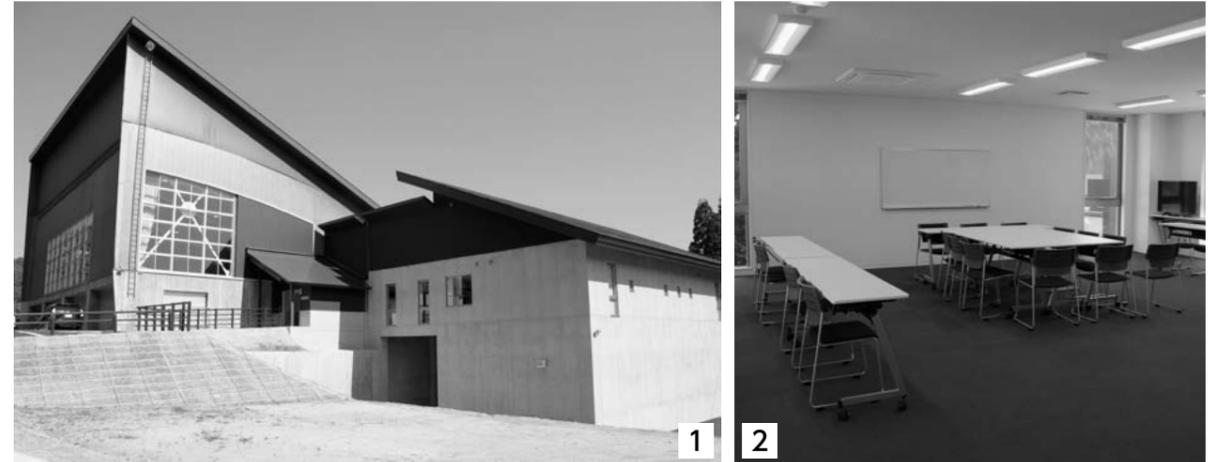
9月25日(水)、東北電力株式会社新庄電力センターと株式会社コアテック新庄営業所より村に7基のLED街路灯(取付工事含む)が寄贈されました。LEDは省エネルギーで寿命が長く、明るい照明として普及が進んでいます。村でも安心安全な街づくりのために、街路灯のLED化を進めており、これまで500基の取替えが完了しています。寄贈いただいたLED街路灯は合海・大坪地区に設置される予定です。ご寄贈ありがとうございました。



## 宝くじ助成金でコミュニティ活動が活性化 赤松地区自治会で赤松センターの備品を整備



赤松地区自治会で、一般財団法人自治総合センターから宝くじの助成を受けて、パイプ TENT、和机、折りたたみ椅子、ホワイトボード、テレビなど、地区でのコミュニティ活動備品を整備しました。この助成事業は、宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備等に助成を行い、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するために行われています。これにより、地区センターに子どもから高齢者が集える環境が整備され、地区行事で使用できる備品が整備されました。



1\_山側から見た建物 2\_防災対策室 3\_肘折小中学校校跡を記録する石碑 4\_グラウンド側からの全景

## 新たな防災拠点として、肘折防災センターが完成

新たな防災拠点となる肘折防災センターが9月26日(木)に完成し、10月2日(水)より供用開始となりました。旧肘折小中学校(現肘折生涯学習センター)の校舎部分を取り壊し、防災活動の拠点となる施設を建設しました。

解体工事・建築工事・搬入路整備をあわせた総工費は約1億7,730万円。1階部分は2つの備蓄倉庫、2階部分は防災対策室、倉庫、救護室などがあります。旧校舎部分解体時に出た廃材のコンクリートをアスファルトなどの骨材として利用し、搬入路がつけられました。

災害時には災害対策本部を設置することを想定して防災対策室が設けられています。防災センター2階からは併設されている生涯学習センター(体育館)に出入りすることができ、災害時には避難所と

して利用されます。肘折地区には指定避難場所の肘折いでゆ館・肘折保育所などがありますが、宿泊客を含めた収容人数の確保が期待されます。



▲廃材コンクリートを活用してつくられた搬入路。生涯学習センター(体育館)へ車で移動することもできる

**矢口来美さん（合海）  
農業クラブ東北連盟大会に出場**



新庄神室産業高校3年の矢口来美さん(合海)は6月27日(木)に開催された山形県学校農業クラブ連盟農業情報処理競技会で最優秀賞に輝きました。農業情報処理競技会は表計算・グラフ作成・考察文章処理を競うものです。また、北秋田市で開催された第70回日本中学校農業クラブ東北連盟大会に出場しました。

**設楽智行さん（合海）  
国民体育大会茨城国体に出場**



新庄神室産業高校2年の設楽智行さん(合海)は、第74回国民体育大会山形県予選会自転車競技大会で少年1kmタイムトライアル、少年インディヴィデュアル・ロードレース80kmで3位となりました。また、9月30日(月)から茨城県取手市で開催された第74回国民体育大会自転車競技大会に出場しました。

**早坂雅妃さん（白須賀）  
東北高等学校新人陸上競技選手権大会女子800mで優勝**



▲左側が早坂雅妃さん

新庄北高校1年の早坂雅妃さん(白須賀)は7月5日(金)から天童市で開催された第74回国民体育大会山形県予選会陸上競技大会に出場し、少年共通800mで3位入賞しました。また、9月13日(金)から酒田市で開催された山形県高等学校新人陸上競技大会で女子400m、女子800mで優勝しました。さらに、9月27日(金)から青森市で開催された第24回東北高等学校新人陸上競技選手権大会の女子800mで2分15秒24のタイムで優勝しました。

**鈴木歩さん（合海）、土田映瑠さん（合海）、佐藤光さん（合海）、  
山科侑暉さん（清水台）が全国中学生野球岩手大会に出場**



▲左から鈴木歩さん、土田映瑠さん、佐藤光さん、山科侑暉さん

大蔵中学校3年の鈴木歩さん(合海)、土田映瑠さん(合海)、佐藤光さん(合海)、山科侑暉さん(清水台)の4名が所属する中学生野球チーム「最上BBC」は6月29日(土)と7月6日(土)に山形県内の野球場で開催された全国中学生都道府県対抗野球大会山形予選で3位入賞しました。また、8月9日(金)から岩手県内野球場で開催された令和元年度第2回全国中学生野球岩手大会に出場しました。



写真提供：山口県長門市企画政策課

**来年度は大蔵村で！全国棚田(千枚田)サミット**

10月13日(日)と14日(月)の2日間、山口県長門市で「第25回全国棚田(千枚田)サミット」が「棚田の魅力再発見！～美しいふるさとを未来へ～」をテーマのもと開催されました。この全国棚田(千枚田)サミットは、棚田の公益的機能に着目し、棚田保全の重要性と耕作継続への意義を広く発信することなどを目的に全国棚田(千枚田)連絡協議会が主催となって平成7年から全国各地で開催されています。今大会は中国地方で初めての大会となり、全国の農業、行政関係者約800人が参加しました。

開会行事では、オープニングミュージカルとして油谷こどもミュージカルの団員による棚田をテーマにしたオリジナルミュージカルが披露されました。その後、農林水産省の事例発表や明治大学教授による基調講演が行われました。また、デザインされた農作業着のファッションショー「アグリアートフェスティバル」も開催され、山口県立大学の学生らが「光の棚田」をイメージしてデザイン・制作したさまざまな農作業着が披露されました。



▲油谷こどもミュージカルによるオープニングミュージカル

2日目の10月14日(月)には、現地見学会と観光エクスカーションが行われました。現地見学会では、日本の棚田百選である油谷東後畑の棚田の見学が行われ、約100人が参加。NPO法人ゆや棚田景観保存会の会員の案内のもと棚田を徒歩で散策しました。

来年の第26回全国棚田(千枚田)サミットは、9月10日(木)から2日間、大蔵村で開催されます。

## 住民票・マイナンバーカードに旧姓を併記できるようになります

役場住民税務課 住民係 ☎75-2103(内線262)

### ▶旧姓を併記できるようになります

11月5日から住民票・マイナンバーカードに旧姓が併記できるようになります。旧姓を併記することで、保険や携帯電話の契約、銀行口座などを旧姓のまま引き続き使いたいときなどに役立ちます。

### ▶手続きの仕方

- ① 旧姓が記載された戸籍抄本や除籍謄本など
  - ② マイナンバーカード・運転免許証・健康保険証などの本人確認ができるもの
- ①と②を持って、現在お住まいの市町村で手続きをしてください。

## 村制130周年記念事業 大蔵村むかしむかし写真展

教育委員会 生涯学習係 ☎75-2323

### ▶むかし懐かしい大蔵村の写真の数々



10月1日(火)～25日(金)まで、中央公民館の1階ロビーで大蔵村むかしむかし写真展が行われました。70枚の写真が提供され、昭和初期から平成初期の写真が展示されました。旧大蔵橋の建設から開通式の写真、未舗装の頃の清水地区の街並み、稲沢の渡しを使って通学する子どもたち、国道からみた升玉地区の街並み、昭和の頃の水害の記録、肘折温泉街の風景など、むかし懐かしい大蔵村の風景が並びました。貴重な写真をご提供いただきましたみなさんありがとうございました。

## 社会保険料(国民年金保険料)控除証明書をお送りします

役場住民税務課 国保年金係 ☎75-2103(内線263)

### ▶年末調整・確定申告まで大切に保管ください

国民年金保険料は、社会保険料控除の対象となります。今年の1月1日から12月31日までに納付した分が対象となります。この社会保険料控除を受けるためには、年末調整や確定申告の際に、納付したことを証明する書類の添付が義務づけられています。

日本年金機構より「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」が以下のとおり送付されますので、年末調整や確定申告の時期まで大切に保管してください。

- 平成31年1月1日から9月30日納付分  
11月上旬に送付
- 令和元年10月1日から12月31日納付分  
来年2月上旬に送付

### ▶ご家族の国民年金保険料も控除対象となります

ご家族の国民年金保険料を納付した場合も、納付額の全額を納付した方の社会保険料控除額に加えることができます。年末調整等の手続きの際に、ご自身の社会保険料の額と合算して申告ください。この場合、ご家族あてに送付された「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」も申告する方の申告書に添付してください。

## 11月30日“いいみらい”の日は年金の日です

役場住民税務課 国保年金係 ☎75-2103(内線263)

### ▶ねんきんネットを活用してみませんか？

ねんきんネットは、日本年金機構が提供するインターネットサービスです。パソコンやスマートフォンなどを使って、ねんきんネット専用ページへアクセスし、次のようなことができます。

- ご自分の年金記録の確認
- 各種届書の作成・印刷
- ねんきん定期便や振込通知書の確認・ダウンロード
- 将来受け取る年金見込み額の試算
- 持ち主の分からない年金記録の検索 など

### ▶お問合せは専用ダイヤルまで

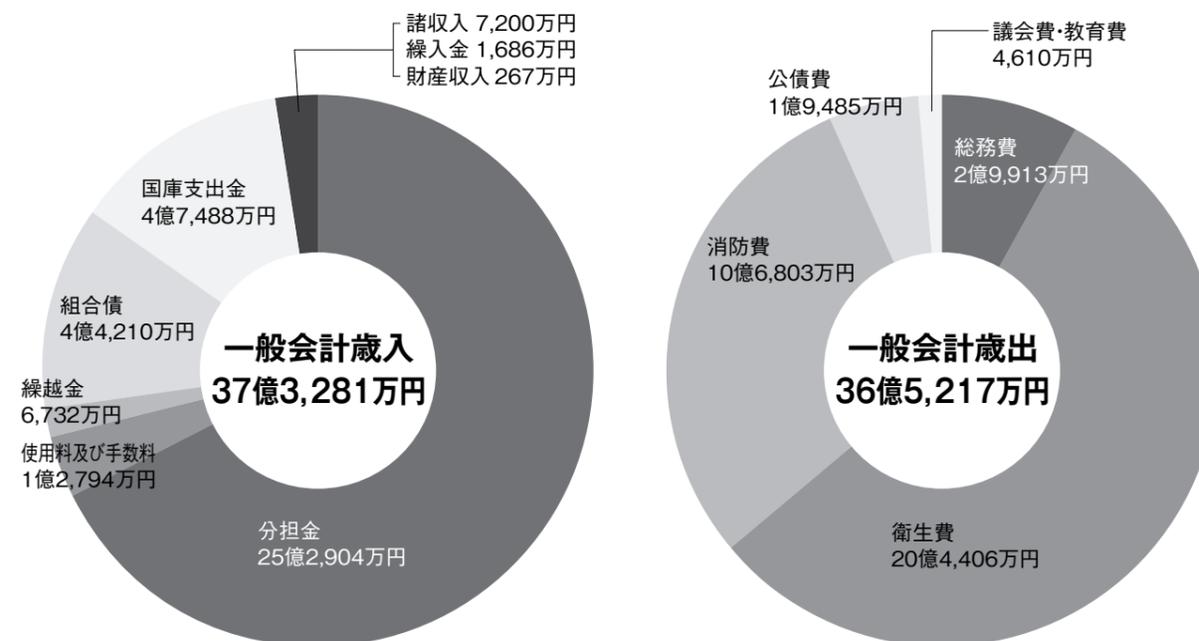
☎0570-058-555

## 平成30年度

# 最上広域市町村圏事務組合の決算を報告します

最上広域市町村圏事務組合は、最上8市町村で構成されている一部事務組合です。最上広域市町村圏事務組合議会10月定例会で平成30年度決算が承認されましたので、お知らせします。

一般会計の歳入総額は37億3,281万円(前年度比4億5,975万円の増)、歳出総額は36億5,217万円(前年度比4億4,643万円の増)となっています。



### ●市町村分担金の内訳 (単位:万円)

市町村	決算額	構成比(%)	対前年度
新庄市	103,942	41.1	▲4,260
金山町	20,278	8.0	▲1,059
最上町	30,111	11.9	▲1,755
舟形町	17,091	6.8	▲1,098
真室川町	27,983	11.1	▲1,426
大蔵村	12,309	4.9	▲666
鮭川村	14,515	5.7	▲840
戸沢村	17,694	7.0	▲802
交付税措置分	8,981	3.5	▲3,948
計	252,904	100.0	▲15,854

### ●一般会計の主な事業 (単位:万円)

区分	決算額	対前年度
広域交流センター「ゆめりあ」管理運営費	10,211	2,164
エコプラザもがみ(ごみ焼却施設)管理運営費	147,088	69,201
リサイクルプラザもがみ(資源リサイクル施設)管理運営費	23,950	3,039
もがみクリーンセンター(し尿処理施設)管理運営費	32,329	▲7,081
消防・救急業務運営費	106,802	▲4,720
教育研究センター管理運営費	4,500	146
公債費(借入金返済)	19,485	▲10,697

特別会計	歳入	歳出
最上広域ふるさと市町村圏事業	2,142	1,775

平成30年度の主な事業は、平成29年度からの継続でエコプラザもがみの基幹的設備改良工事を実施し、処理能力の改善、施設の延命化を行いました。さらに、リサイクルプラザもがみでは最終処分場の盛土堤等工事を実施しました。衛生費の総額は20億4,406万円(前年度比6億5,492万円の増)となりました。消防費として、消防学校への入校・救急救命士の養成などの各種研修を行い、地域の安全安心を守るための人材育成を行っています。また、消

防ポンプ自動車や救急自動車などを購入し、総額は10億6,803万円(前年度比4,718万円の減)となりました。教育研究センター管理運営費では、算数・数学スーパーバイザー事業やプラネタリウムの投影、科学実験などの各種講座を開催しました。

特別会計では、最上圏域と沖縄中部圏域との児童交流事業や交流30周年記念事業として、新庄まつりの山車の派遣事業を実施しました。

山形県の最低賃金が改正

令和元年10月1日で山形県の最低賃金が改正となりました。県内で働くすべての労働者に適用されます。

- 時間額 790円(27円アップ)
- ☎山形県労働局賃金室 ☎023-624-8224

悩みに寄りそう講座  
離婚の二文字が浮かんだ時に

- とき 11/7(木)10:00~12:00
- 場所 山形市男女共同参画センターファアラ
- 講師 弁護士 山口紗世子 氏
- 定員 30名(要予約)
- 参加料 無料
- ☎山形県男女共同参画センターチェリア ☎023-629-7751

新消費税！  
経理と申告はどうする？

- とき 11/11(月)13:30~16:30
- 場所 ゆめりあ ホール・アベージュ
- 内容 10月からはじまった消費税の軽減税率制度を中心とした基調講演や公開討論を行います。
- 定員 90名
- 入場料 無料
- ☎東北税理士会新庄支部 ☎32-1435

新庄吹奏楽団  
第36回定期演奏会

- とき 11/17(日)14:00~
- 場所 新庄市民文化会館

新庄市夜間休日診療所

- 新庄市保健センター内に開設 ☎29-6300
- 診療科目 内科・小児科
  - 受付時間  
夜間診療(月~土曜) 18:30~21:00  
休日診療(日曜・祝日・12/31~1/3) 8:30~11:30/13:00~16:30
  - 問合せ先 新庄市健康課健康推進室 ☎22-2111

- 内容 山形交響楽団トロンボーン奏者の篠崎唯氏を迎え、ラプソディア・ボレアリス、伝説の演歌メドレーなどを演奏します。
- 入場料 一般500円(高校生以下無料)
- ☎新庄吹奏楽団 鈴木絃一 ☎090-5830-3593

消費税の軽減税率制度  
説明会

- とき 11/19(火)14:00~15:00  
12/10(火)14:00~15:00  
12/17(火)10:00~11:00 (いずれも内容は同じ)
- 場所 新庄税務署
- 内容 消費税軽減税率制度の概要、区分経理と消費税申告書作成、その他制度に関係する事項
- 対象者 全事業者
- ☎新庄税務署法人課税部門 ☎22-5170

違反対象物公表制度の  
実施について

- 消防機関が立入検査の際に確認した重大な消防法令違反のある建物を最上広域市町村圏事務組合のホームページで公表します。
- 運用開始 令和2年4月
  - 公表対象となる建物 飲食店、物品販売店舗、ホテル、病院、社会福祉施設等
  - 公表対象となる違反 消防法令により建物に設置が義務づけられた屋内消火栓設備、スプリンクラー設備または自動火災報知設備のいずれかが消防法令に違反し、設置されていないもの。

**編集後記** 大蔵村では就農する若者が少しずつ増えています。農業は村の基幹産業の一つ。これまでの農業を確立してきた先人のみなさんの努力と苦労があったからこそ今の村の農業があります。ベテラン農業者から若い農業者へむけられた言葉の数々は厳しさとともに愛情が感じられる内容でした。今回

- 内容 消防本部 ☎22-7521
- ☎最上広域市町村圏事務組合

福祉のしごとフェア in 新庄

- 福祉の仕事の魅力に触れることのできる企画を用意しています。
- とき 11/20(水)13:30~16:00
  - 場所 ハローワーク新庄
  - 内容 介護福祉事業所との個別面談会、トークショー、相談コーナー、介護食・福祉車両の展示など
  - 対象者 福祉の仕事に関心がある方
  - 入場料 無料
  - ☎ハローワーク新庄 ☎22-8609

排水設備工事責任技術者  
登録更新のお知らせ

- 山形県下水道協会に登録している責任技術者で登録の有効期限が令和2年3月31日までの方は現在所属している指定工事店所在地の市町村で更新手続きが必要です。
- 必要な手続き 登録更新の申請、更新講習会の受講
  - 申請期間 11/1(金)~11/29(金)
  - ☎役場地域整備課上下水道係 ☎75-2102(内線221)

も広報おおくらの取材に応じていただいたみなさま、様々な面でサポートくださいましたみなさま、ありがとうございました。感謝の気持ちとともに11月号を送り出します。今年、大蔵村は村制施行130周年をむかえました。大蔵村がこれまでつづいてきたように、村の農業がこれからも受け継がれ、発展していきますように…

大蔵村環境衛生通信 vol.64

古紙の出し方のポイント

▶半年で約11トンの古紙が集まりました

役場前に設置してある資源ステーションでは、今年4月から9月までの半年間で約2トンもの古紙が資源として集められました。古紙回収会社に売却したところ、約11万円が村の収入となりました。また、古紙を資源として出すことでゴミの減量化はもちろんのこと、焼却量を減らすことで二酸化炭素排出量の減少にもつながっています。



▶古紙の出し方を確認！

- 新聞紙/雑誌類/段ボール 種類ごとにまとめてから白い紙ひもでしばる
- 雑がみ 段ボールや新聞紙と混ぜないようにして、まとめる



POINT

1. 古紙の種類ごとにわかる
2. ビニールがついているものは取り除く
3. 白い紙ひもでしばる

☎問合せ 役場健康福祉課 健康衛生係 ☎75-2104 (内線272)

読んであげたい今月の1冊に

絵本とお話の会 フレデリック

📧 今月の1冊 📧

「どんぶりん」

作 新井 洋行



(アリス館)

どんどんどんどんぶりん♪とうたいながらしるめしをどんぶりにのせたどんぶりがやってきました。まいにちひがわりでいろいろなおともだちとであい、おいしそうなどんぶりにへんしんしています。にちようびにはいつもとちがうかわったおともだちともであります。さあ、みんなのおうちのごはんはなにかな？おなかがすいてくるおはなしです。

- 中央公民館でかきことができます
- 読み聞かせ時間 5分

戸籍の窓

9月16日~  
10月15日届出分

お誕生おめでとう

地区	お名前	保護者名
赤松	加藤 蒼士くん	雄也
赤松	加藤 稜晴くん	雄也

お悔やみ申し上げます

地区	お名前(年齢)	世帯主
白須賀	佐藤 里(86)	幸子
通り	後藤 俊雄(87)	俊悦
清水三	佐藤 英二(82)	幸子

※届出の際に、掲載希望の確認を行っています。担当窓口にお申し出ください。

人のうごき

令和元年9月末現在  
( )は昨年同期

世帯数	1,056戸	(1,075戸)
人口	3,179人	(3,275人)
男	1,578人	(1,625人)
女	1,601人	(1,650人)
出生	男1人	女0人 計1人
死亡	男4人	女2人 計6人
転入	男2人	女1人 計3人
転出	男4人	女4人 計8人

11月の予定

- 3日(日) 村制施行130周年記念式典
- 6日(水) 知事と若者の地域創生ミーティング
- 7日(木) 献血
- 8日(金) 育児相談
- 11日(月) 肘折温泉郷なめこけし祭り
- 14日(木) ヘルシーティース
- 19日(火) 行政相談
- 29日(金) 大蔵村保育所発表会

村税の納期限

- 🔗 税目 固定資産税 第4期  
国民健康保険税 第5期
  - 🔗 納期限 12月2日(月)
- 納期限まで忘れずに納税しましょう。  
口座振替の方は残高の確認をお願いします。

—お詫び—

本誌の令和元年10月号12頁の「大蔵村長寿番付表」は92歳以上と記載しましたが、昭和2年4月1日生まれの方までの掲載となっていました。お詫び申し上げます。



# ORAENOMENGO

## 今月のおおくらっ子

村内の子どもたちを紹介しています。親戚やお友達、ご近所のお子さんの掲載もお楽しみに！



お名前 鈴木さくらちゃん(祐一)  
地区 合海  
好きなもの ぶどうとプリキュア



お名前 早坂 櫻子ちゃん(隆一)  
地区 肘折  
好きなもの いちごと折り紙



おもくらくんがみつけた  
むらのみつばい  
おもしえびい

今月の「みつばい」  
おもしえびい

③4 光明寺の  
キャラボク

ごめんくださ〜い  
めずらしい  
キャラボク見せて  
くださーい

こんなに大きい  
キャラボクは  
めずらしいんだって♪

キャラボクさん  
これから元気で  
長生きしてね〜

ぼくのおなかもすっぽり隠れる?!  
くらい幹周りが太いんだ〜